

保護者保育者の皆さまへ

子どもが生まれると、だれもが
「丈夫で 元気に すくすく」と育ててほしいと願います。

赤ちゃんは、お母さんから
病気から守ってくれる免疫をもらって生まれてきます。
しかし6か月頃にはお母さんからの免疫もなくなり
病気にかかりやすくなります。
免疫も体力も十分そなわっていない子どもたちは、
風邪などの病気（感染症）に何度もかかりながら、
自分の力で病気と闘い免疫をつくっていきます。

保育園は、長時間密接に関わりあう集団生活の場であり
多くの病気（感染症）がはやります。

病気が回復していない状態で登園することで、
他の子へ感染症を広げてしまうこともあります。

また、集団生活に対応できない状態のこともあります。

保護者にとって子どもが小さいときには、しばしば
子どもの病気で仕事を休むことが多くなり、
仕事が思うようにできない場合があります。

このように保育園は病気にさらされる頻度の多い場所ですが、
友達と共に過ごすことで生涯にわたり健康な心と身体を育む
小さな社会生活の場でもあります。

子どもたちは一年一年と着実に丈夫になっていきます。

保育園での毎日が楽しく過ごせるよう“家庭”“保育園”“地域社会”が
子どもの病気について共通の理解をもち、最大限の予防策を講じながら
あたたかく見守っていきましょう。



<目次>

保護者保育者の皆さまへ	
子どもの健康と安全を守るために	2
保育園とくすり	3
子どもの症状を見るポイント	4
知っておきたい子どもの病気	16
予防接種	22
保育園における感染症の登園のめやす一覧表	27
救命処置(AED：自動体外式除細動器)	29
すぐに救急車を呼ぶとき	30
歯の健康管理	32
緊急時の対応	36

